

クビワコウモリの保護活動及び啓蒙活動

クビワコウモリを守る会

クビワコウモリを守る会は、長野県乗鞍高原において、クビワコウモリとその繁殖コロニーを守るために活動しています。クビワコウモリのねぐらの保全、創出、観察会、コウモリ全般の調査等、その活動の領域は多岐にわたります。

【活動背景】

クビワコウモリは、環境省のレッドリストの絶滅危惧種Ⅱ類に指定されており、さらに長野県の「指定希少種」にも認定され、その希少性と重要性が指摘されています。現在でも繁殖が確認されているのは乗鞍高原のみです。



バットハウス改修完成式の様子（2024年5月）

【活動目的】

1995年にクビワコウモリを守る会が設立され、1996年に助成金を利用して繁殖施設（通称：バットハウス）が建てられました。以降、バットハウスは保護活動と生態調査の拠点として利用されてきましたが、徐々に老朽化が進んでいました。クビワコウモリの今後の継続的な保護と調査のためにも、バットハウスを改修する必要性がありました。



クビワコウモリ

【助成金の用途・活動結果】

当財団からの助成金は、老朽化していたバットハウスの全面改修費に活用されました。改修後、2024年5月に「バットハウス改修完成式」が開催されました。6月の調査では、新バットハウスから出てくるクビワコウモリが確認され、継続して乗鞍高原全体のクビワコウモリの個体数やその変化を観察していくことが可能になりました。

【団体からのメッセージ】

老朽化したバットハウスの改修をJACの助成によって行うことができ、まずは今後の保護の足掛かりとなる重要な施設を存続することができました、感謝申し上げます。ただ、クビワコウモリの個体数は2002年ごろは300頭以上が確認されていましたが、この後減少を続け2024年には100頭未満の利用となっています。乗鞍高原以外の生息場所とのメタ個体群構造であるものと考えられ、今後はさらなる広範囲での調査保護活動が必要と考えられます。ただ、資金も人手も不足しており、皆様からの支援が必要です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。